



## 新課程教科書紹介特集 Part 6

# 生物基礎

元東京都立国立高等学校教諭 峯 薫

### 1. 新学習指導要領によって、授業はどのように変わるか。

2022年度から、新学習指導要領が実施される。現在、情報化やグローバル化といった社会的変化が予測を超えて進展しており、今の生徒が大人になる頃には、どのような社会になるか予測不可能な面がある。そこで、今回の改訂では、どのような社会になろうとも、生徒ひとりひとりが主体的に対応し、広い視野をもって、自分の人生を切り拓いていけるような力を身に付けさせることを目指したと考えられる。

新学習指導要領では、授業改善の方向として、いわゆるアクティブ・ラーニング、「主体的・対話的で深い学び」が示された。具体的には、「…の資料に基づいて」、「…の観察・実験などを通して」、「…を見いだして」という記述が新たに追加された。「基づいて」は、グラフや表、実験・観察のデータから生徒に知識・技術を習得させる授業を、また「観察・実験などを通して」は、科学的に探究するために必要な知識・技術を習得させる授業を意味している。また「見いだして」は、一方的に知識・技術を与えるのではなく、生徒が主体的に学習へと取り組む授業を意味している。

したがって、新学習指導要領に示された授業を行うには、教材のスタイルを改変するとともに、授業のスタイルも変えていく必要がある。おそらく、その授業のスタイルは次のようになると推察される。

……………  
教員から生徒へ、授業のテーマを、場合によっては実験とその結果や資料に基づいた内容を提示する。

生徒は、ペアやグループをつくり、そのテーマに沿って話し合い、その「答え」を考える。

ペアやグループで考えた答えを発表し合って、「答え」を共有する。

リフレクション（振り返り）として、「(1)学んだこと、(2)理解したこと、(3)わからなかったこと、(4)

疑問に思ったこと、(5)授業の中で考えたこと」などを書かせてまとめとする。

……………  
しかし、すべての授業をこのようなスタイルで行うと、様々な障害が予測される。アクティブ・ラーニング型の授業では、「主体的に考えること」の定着が大きな課題であり、生徒に発言させる機会も多くもたせるため、ひとりひとりの生徒が成果を得るにはかなり時間がかかる。また、生徒の経験と知識の範囲内で考えさせるため、深い学びまで導くことが難しい。さらに、アクティブ・ラーニング型の授業に適したテーマもあるが、明らかに適していないテーマもある。そこで、従来型の授業も併用し、短い時間で基礎的な知識を増やすことが必要となると、個人的には考えている。

### 2. 新しい教科書はどのようにつくられたか。

新しい教科書は、今までの小判(A5判)から大判(B5判)になることになった。また、新しい教科書をつくるにあたり、「対話的な学び」や「深い学び」も考慮しながら、「主体的な学び」を最も重視して、どのように生徒の興味関心を引くかを中心に考えることにした。

そこで、項の始めにそこで学ぶ目標を掲げて項で学ぶ内容を示し、目タイトルを生徒の興味関心を引くように、「…だろうか?」のような問いかけにした。さらに、「主体的な学び」や「対話的な学び」ができるように、適宜、「考えてみよう」、「調べてみよう」、「話し合ってみよう」という小さな囲みを設置した。

新学習指導要領にそって、目の導入から資料を示し、考えることから始まるページもいくつか用意した。(資料1)

また、適所に Challenge として、生物学的な思考力を養うことのできる考察問題を扱っている。(資料2)

